

経済マンスリー

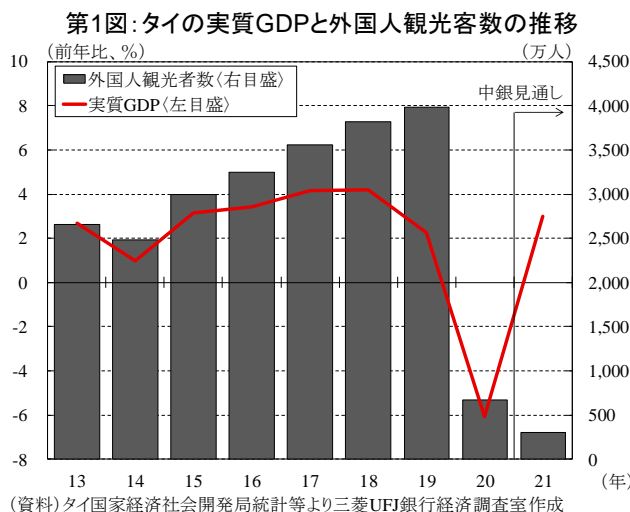
[アジア]

観光業の復調時期が見通し難いなか、新国家戦略を策定したタイ

タイでは外国人観光客(2019年約4,000万人)からの観光収入が名目GDPの10%程度と観光業への依存度が高く、平時においては経済全体との連動性が高い(第1図)。タイ中銀は3月に今年の実質GDP成長率を前年比+3.0%と予想しているが、達成するにはほぼ零となっている外国人観光客数を年間300万人以上まで戻す必要があると想定されている。仮に10万人を下回るような状況になれば▲1.7%ポイントの下押しになるとも試算しており、観光業の回復の遅れが景気に直結することが懸念されている。このため、タイ政府は3月に外国人観光客に課していた入国後一定期間の隔離を廃止する政策を掲げ、7月からプーケット等で実施すると発表していたが、足元の新型コロナウイルス感染再拡大を受け、足元では実施が危ぶまれている。世界的な感染収束にもまだ時間を要すると思われる中、外国人観光客誘致のための効果的な政策を実施するのは依然難しい状況であり、観光業の本格的な復調時期は見通し難いといえる。

他方、タイ政府は観光業に大きく依存した経済の脆弱さを認識しており、今年1月にはコロナ禍後を見据えた新たな国家戦略「BCG(バイオ、循環型、グリーン)モデル」を策定している(第1表)。これまでは2016年策定の「タイランド4.0」に沿って外資企業を積極的に誘致し産業高度化を目指してきたが、今回はこれに加え、世界的な潮流に合わせ環境を重視する姿勢を鮮明にし、タイの強みである農業分野も環境保全に関連付けて活性化しようとする戦略である。策定に先立ちタイ投資委員会は、BCG関連の投資を実施した外資企業に対し減税を実施しており、プレスリリースによれば今年のBCG関連の対内直接投資は、前年比+17.2%とコロナ禍で全体の投資が大幅な減少となる中でも増加となった模様である。

今回のBCGモデルのコンセプトは環境分野に関心の高い先進国企業の投資ニーズ喚起も期待でき、持続的な成長実現の為の新たな軸となる産業の創出へ向けての糸口となりうる。具体的な投資計画等の枠組み作りはこれからであり、現時点での過度な期待は禁物だが、国際観光の復調に不透明感が漂う中で、観光依存の大きい新興国の新たな発展モデルとして注目されよう。



第1表: タイの主要政策

タイランド4.0 (2016-2036)	
概要	高所得国入りを目標とした積極的な外資誘致による産業高度化政策
重点分野	次世代自動車やスマートエレクトロニクス、デジタル、ロボット等10分野
BCGモデル (2021-2026)	
概要	<ul style="list-style-type: none"> タイの強みである農業を活かした経済発展を目指す5ヵ年計画 「タイランド4.0」から環境重視をより前面に打ち出した戦略
4つの戦略	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境保全と資源利用のバランスをとった持続可能性の構築 ② 技術革新による地域経済の発展 ③ BCG経済の下で持続可能な競争力の促進 ④ 国際社会の変化へに対する対応能力の向上
4つの重点分野	<ul style="list-style-type: none"> ① 食品と農業 ② 医療と健康 ③ バイオエネルギー、バイオ素材 ④ 観光、創造経済(エコ・ツーリズム、スポーツ、文化等)

(資料) 各種報道より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 野瀬 陽平 youhei_nose@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。